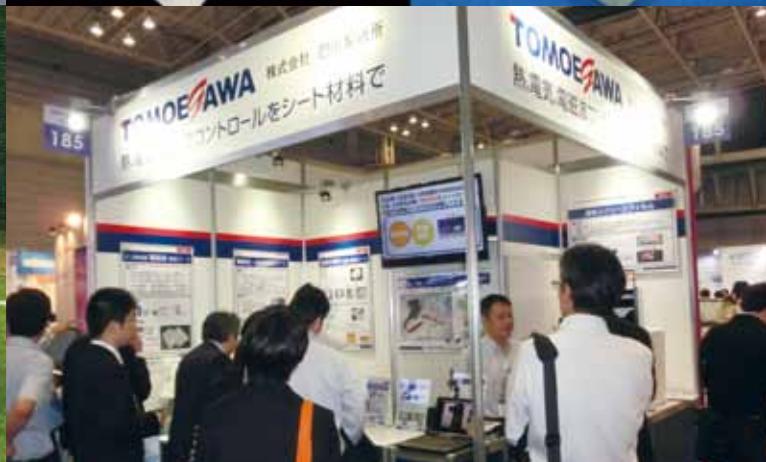


グローバルに展開し成長する全員参加の開発型企业

第157期 報告書

2015年4月1日~2016年3月31日

TOMOEGAWA BUSINESS REPORT



<http://www.tomoegawa.co.jp>

■ ごあいさつ

■ 第157期(2015年度)の業績

2015年度におけるわが国経済は、年度の前半は緩やかな回復基調で推移したものの、後半に入り、中国を始めとした新興国経済の減速懸念が拡大し、年明けからは円高が進む等、先行きの不透明さが拡大する状況となりました。特に第3四半期以降、中小型液晶製品の出荷停滞が、関連業界全体に大きな影響を及ぼし始めました。このような状況の下、当社は開発及びマーケティング費用の投入を増加させ新製品の上市を加速させるとともに、トナー事業の新規受託案件獲得などによる拡大を積極的に推進してまいりました。

連結売上高は335億2百万円と、前期に比べ6億1千1百万円(前期比1.8%減)の減収となりました。利益面については、成熟期にある一部既存製品の売上減や液晶部材向け受託塗工事業の環境悪化に、年明けからの円高進行の影響などが加わったものの、各種営業努力、エネルギー調達価格の低減効果、前期大きな減益要因となったトナー中国事業調整解消などがあり、連結営業利益は2億9千万円(同56.2%増)となりました。また連結経常利益は、前期は黒字であった持分法投資損益がFPD関連事業の調整の影響により赤字に転じたことと、期末の為替レートが円高に進んだことによる為替評価差損を計上したことにより、1千8百万円の赤字(前期比4億9千5百万円の悪化)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益については、インドAURA社を本年3月末に子会社化したことに合わせてのれんを一括償却したことに加え、今後稼働率向上が見込めない固定資産を減損処理したことによる特別損失の計上などにより、9億2千9百万円の赤字(前期比9億7千8百万円の悪化)となりました。

■ 第6次中期経営計画のローリングについて

IoT (Internet of Things) の時流を踏まえ、当期より熱・電気・電磁波コントロール材料を重点分野 (iCas) と定め、経



営資源の積極的投入により新製品開発を加速させ持続的な成長軌道に戻ることを企図した第6次中期経営計画を進めてまいりました。その後1年が経過したところで、マーケティングおよび新製品開発活動のこれまでの成果や、インドAURA社の子会社化などグローバルでの生産販売体制の強化、さらに赤字事業に対する抜本的対策の遂行状況も踏まえ、あらためて第6次中期経営計画のローリングプランを策定、増収増益をより確実に達成していくことを目指しております。(計画の詳細は2ページをご覧ください)

■ 第158期(2016年度)の展望

中期経営計画ローリングプラン初年度となる2016年度の連結業績予想については、増収増益を目指すものの、前期比較で円高水準にあることに加え、市場縮小が進む一部既存事業への対応、エネルギーコスト削減のための設備投資効果の発現、及び新製品立上に要する時間を考慮し、これに退職給付費用などの費用負担増が加わるなどから、売上高350億円(前期比4.5%増)、営業利益5億円(営業利益率1.4%、同72%増)、経常利益4億円、当期純利益5千万円に留まる見込みです。また、次期の配当予想については、安定的な配当を継続実施していく基本方針に則り、1株当たり5円の期末配当を継続する予定です。

株主の皆様におかれては、引き続きのご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

井上善雄

業績ハイライト

トピックス

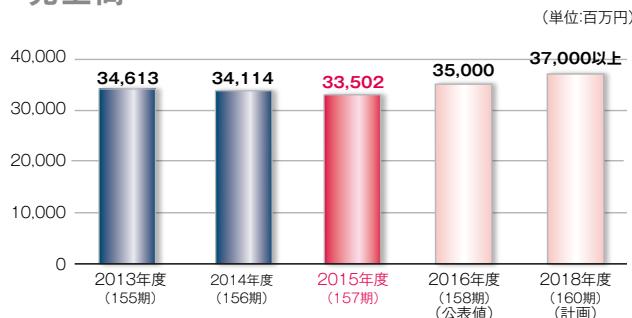
新製品開発の進展

当社は昨年春に公表した第6次中期経営計画において定めた「重点分野」である熱・電気・電磁波コントロールといった i C a s 分野を中心に、経営資源の積極投入を続けております。グループトータルでのマーケティング・開発にかかる費用は、過去2年にわたり従前比で年当たり約3億円増加させており、特許の年間出願件数等がそれ以前に比べ倍増するなどの効果が出ています。今後もこの動きを加速させ、売上高に占める新製品の比率を高めてまいります。

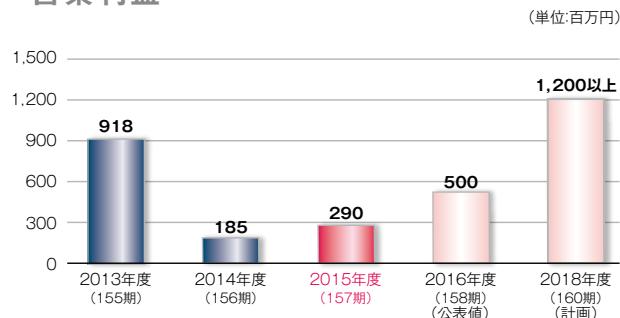
第6次中期経営計画のローリング

第6次中期経営計画期間のスタートから1年間の成果や外部環境の変化を考慮し、中期経営計画のローリングを行いました。引き続き i C a s 分野への経営資源の積極投入とグローバル化の進展で成長を目指す基本方針を維持するとともに、個々の事業における重要課題への対策を進めることを明確にした上で、3年後の2018年度には連結売上高370億円以上、営業利益12億円以上を目指します。

■ 売上高



■ 営業利益



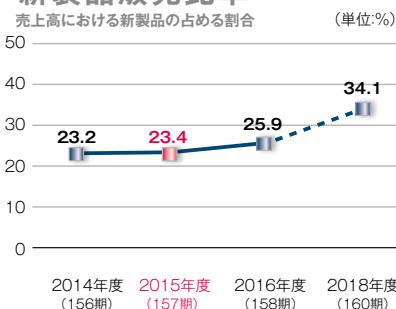
■ 経常利益



■ 当期純利益



■ 新製品販売比率



■ 連結財務諸表

■ 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	2014年度 (2015年3月31日)	2015年度 (2016年3月31日)	
資産の部			0
流動資産	20,875	20,358	10,000
固定資産	19,632	19,041	20,000
			30,000
			40,000
合計	40,508	39,399	

(単位:百万円)

科目	2014年度 (2015年3月31日)	2015年度 (2016年3月31日)	
負債・純資産の部			0
流動負債	16,720	17,195	10,000
固定負債	9,509	9,708	20,000
純資産	14,278	12,495	30,000
			40,000
合計	40,508	39,399	

POINT

ポイント①

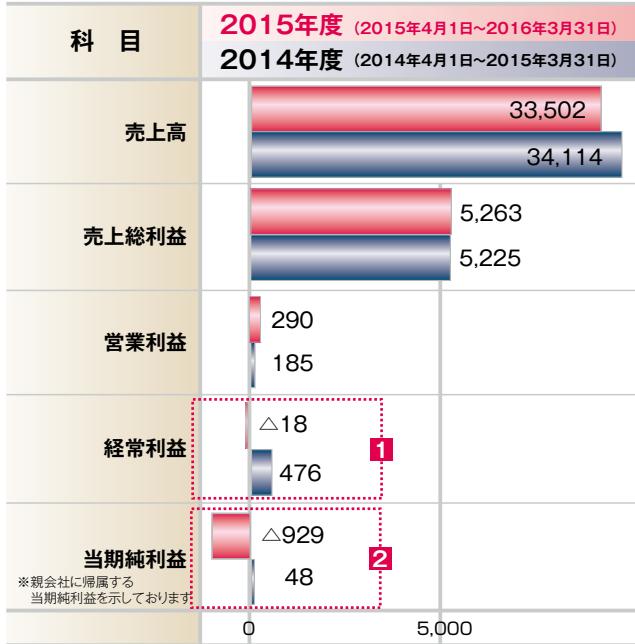
前期に大きな減益要因となったトナー中国事業の調整は、事業活動の予測精度向上などにより影響額を大きく減少させました。一方、当期末は前期末に対し大きく円高が進行し為替評価損を計上したことが、経常利益を大きく悪化させました。2016年度は、外貨バランスの見直し等を進め、経常利益で4億円以上に復することを目指しております。

ポイント②

当期純利益は大幅な赤字となりましたが、その要因が為替評価損、のれんの一括償却、減損処理の実施など評価にかかわるものであることから、営業活動によるキャッシュフローは前期と同水準を維持しております。

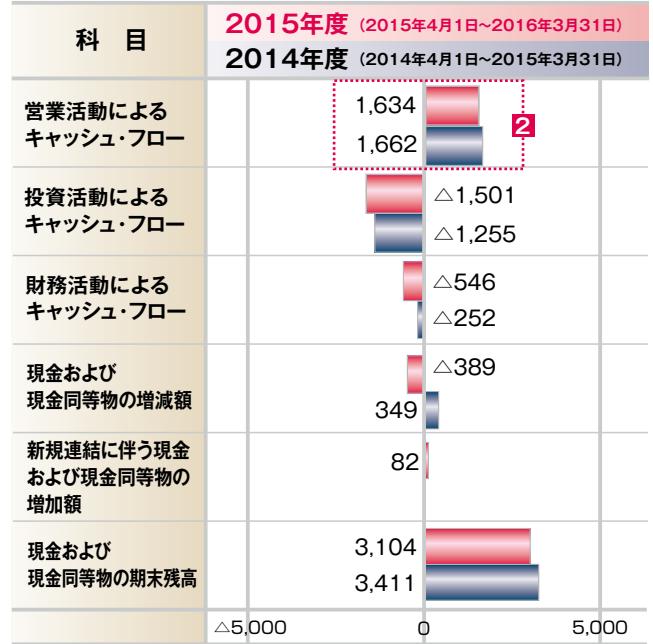
■ 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)



■ 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

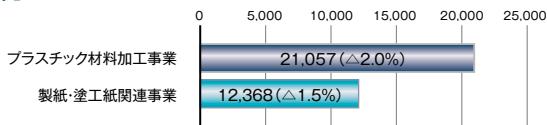
(単位:百万円)



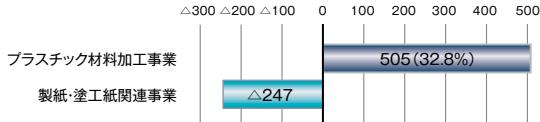
■ 主なセグメントの事業概況

売上

(単位:百万円 対前年度増減率:%)



営業利益



プラスチック材料加工事業

トナー関連事業の新規受託案件獲得等による拡大を積極的に推進した事により、液晶部材向け受託塗工事業の環境悪化等のマイナス影響を相殺し、これに電力・燃料価格の低減効果や前期大きな減益要因となったトナー中国事業の調整解消などで、対前年度32.8%増の増益となりました。

製紙・塗工紙関連事業

成熟期にある一部既存製品の売上減少が進む中、電力や燃料調達価格の低下もありましたが、バルブ価格が上昇したこと、在庫削減を積極的に進めた結果として対前期で減益となりました。中期経営計画においては赤字脱却に向けての抜本的な改善に取り組んでおります。

監査等委員会設置会社へ移行

当社は2016年6月24日の株主総会の終結をもって監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行いたしました。この機関設計を活用して、業務執行者に対する監督を強化する体制を構築するとともに、監査体制を強化し、ひいては当社が目指す新たな成長分野への集中投資による企業価値の創出を支える環境を整備してまいります。

iCas分野での活動を推進

クラウドや人工知能の普及によるITの進化と、ウェアラブルデバイスやIoT (Internet of Things) の普及が進む中で、当社グループでは、「抄く」「塗る」の製造技術を、さまざまな処方・評価技術と結びつけ、各種電子機器が抱える熱やノイズ関連の課題に対する解決策を提供すべく、積極的な開発およびマーケティング活動に努めています。

2016年5月にパシフィコ横浜で開催された自動車技術展「人とくるまのテクノロジー展2016」にも出展、当社技術の紹介とユニークな提案を、延べ500名以上の方々に行いました。



製品ブランド名「iCas」(アイキャス)は、熱・電気・電磁波コントロール材料に求められる「Insulation」(絶縁)、「Conduction」(伝導)、「Absorption」(吸収)に「Sheet」(シート)の頭文字をつなぎ合わせたものです。

今後も、当社の保有する技術とお客様ニーズとが結実したiCas関連製品を次々と上市し、これからの事業の礎を築いてまいります。

TOMOEAWA の「抄く」と「塗る」で「熱・電気・電磁波」を制御

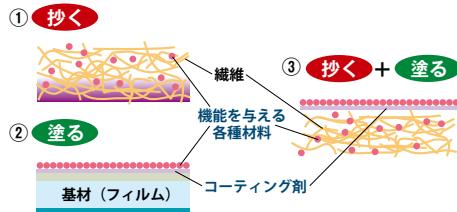
<お客様（電子部品）がお求めの対策> → <TOMOEAWAの中核技術> → <ソリューションの展開例>



さまざまな繊維をシート化して機能を発現
抄紙技術 **抄く**
TOMOEAWA のユニークな着眼と製造技術により、全く違う機能を付与する高機能な紙を多数創製しています。



薄く、均一に、多層にコーティングする技術力
塗工技術 **塗る**
お求めの機能が発現するよう塗布剤を調合し、紙やフィルム等の基材上に高精度にコーティングして機能層を創出しています。



「抄く」と「塗る」の両方の技術を持つ当社は、お客様の抱えるニーズに対し、複数の手法からベストソリューションを提供いたします。

会社概要

(2016年3月31日現在)

商号	株式会社巴川製紙所 (TOMOEGAWA CO.,LTD.)
創業	1914年(大正3年)6月19日
設立	1917年(大正6年)8月15日
資本金	2,894,953,550円
従業員数	連結 1,177名 単独 369名
主要事業所	本社(東京都中央区) 静岡事業所(静岡市駿河区) 清水事業所(静岡市清水区) 大阪営業所(大阪市生野区) グループ会社事業拠点 静岡市、大阪市、岡山市、潮来市 米国、オランダ、中国、香港、韓国、インド、台湾

役員 (2016年6月24日現在)

取締役

代表取締役社長	井上 善雄
取締役 専務執行役員 機能紙事業部長	今田 俊治
取締役 専務執行役員 社長補佐	三井 清治
取締役 常務執行役員 CFO 経営戦略本部長	山口 正明
取締役 常務執行役員 電子材料営業本部長	畑澤 敏之
社外取締役(監査等委員)	小森 哲郎
社外取締役(監査等委員)	鮫島 正洋
社外取締役(監査等委員)	鈴木 健一郎

執行役員

上席執行役員 事業開発本部長	井上 雄介
執行役員 生産技術本部長 兼 品質保証統括室管掌	作本 征則
執行役員 事業開発本部統括副本部長	村田 力
執行役員 画像材料事業部長	中村 公彦
執行役員 電子材料事業部長	須川 美久

株式の状況

(2016年3月31日現在)

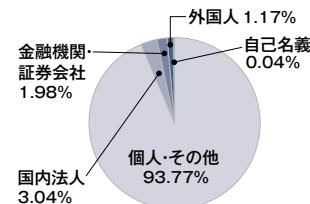
発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式総数	51,947,031株
株主数	2,729名
大株主	

株主名	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
凸版印刷(株)	5,697	10.9
栄紙業(株)	3,336	6.4
昌栄印刷(株)	3,314	6.3
鈴與(株)	2,494	4.8
三井化学(株)	2,439	4.6
(株)三井住友銀行	1,979	3.8
三弘(株)	1,751	3.3
巴川製紙取引先持株会	1,743	3.3
東紙業(株)	1,736	3.3
井上善雄	1,531	2.9

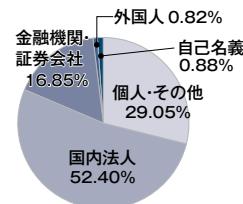
※自己株式を含む

株主の分布状況

株主数比率



株式数比率



株主メモ

証券コード 3878

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月下旬

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同 連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
☎ 0120-232-711 (通話料無料)

同 取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

上場証券取引所 東京証券取引所

公告方法 電子公告により行う
公告掲載URL <http://www.tomoegawa.co.jp>
(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、東京都において発行する日本経済新聞に公告いたします。)

1単元の株式数 1,000株

TOMOEGAWA

株式会社巴川製紙所

本社 〒104-8335 東京都中央区京橋1-7-1

静岡事業所 〒421-0192 静岡県静岡市駿河区用宗巴町3-1

清水事業所 〒424-0831 静岡県静岡市清水区入江1-3-6

大阪営業所 〒544-0034 大阪府大阪市生野区桃谷1-3-23

本報告書についてのお問合せ先

経営戦略本部 企画グループ

TEL : 054-256-4319

<http://www.tomoegawa.co.jp>



TOMOEGAWA BUSINESS REPORT (報告書) については、弊社ホームページでの各種開示を一層充実させることで、株主の皆様への送付は、年1回6月頃のみとさせていただきます。

インドAURA社を子会社化

2016年3月に従前より経営参画していたAura Paper Industries(India)Pvt.Ltd. (以下AURA社)の株式を追加取得し、当社が60%の持分を有する連結子会社といたしました。今後はAURA社の製造する絶縁紙の品質安定化、生産性の向上、販売促進、経営体制の強化を当社主導で進め、拡大するインドおよび東南アジア地区の絶縁紙市場において、当社ブランドの更なる浸透を目指します。



フットサル部「TOMOEGAWA iCas」キックオフ

2016年4月に当社フットサル部「TOMOEGAWA iCas」がキックオフいたしました。静岡事業所に隣接する社宅敷地の跡地に新設されたフットサルコートにおいて、新調のユニフォームを身につけたお披露目式も行いました。まずは5月から始まった静岡県中部地域リーグに挑み、かつて東海リーグで活躍したサッカー部を彷彿させる戦いで、一試合一試合に全力を尽くして会社を活気づけてまいります。試合のスケジュールは当社HPにも掲載しますので、全社から選ばれた精鋭たちへの応援を、よろしくお願いいたします。



「熱・電気・電磁波コントロール材料」の「iCas (アイキャス)」については、5ページのTOPICSをご覧ください。